

2019年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にす、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

課題	具体的な取組み方法
保育の計画性	<ul style="list-style-type: none">・ 長期的な視野を持ち、先を見通した上で指導計画を立てる。・ 指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応出来るように作成する。特に、自由遊びをマンネリ化させず、又、子どもの自発性にのみ任せざるばかりでなく、一人ひとりの教師が、遊びを具体的に提供し、教師の指導のもとに遊びを展開する時を持つ。新しいことにもチャレンジしていく。・ 指導計画を適切に文章化し、更にレベルの高い保育日誌を充実させる。・ 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるように教師の願いや意図を持ち、また季節や社会の変化に応じた環境構成をし、幼児の感覚や興味、関心に刺激を与える。・ 認定こども園になり、年齢幅が広がることから描く年齢に合った指導計画を充実させる。又、異年齢の関わりを充実させ、育ち合う環境を設定する。
教師としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none">・ より高度な専門知識や技能を身につけるために、前年度より継続して自己研鑽を行っていく。そのために、各自、自分の研鑽すべき目標を具体的に掲げ、研鑽報告を園内研修で行う。・ 園全体のことに目を配り、どのように動けばよいか、又、仕事の手順も考えて、一人ひとりが主体的に動く。・ 周囲の恵まれた環境を生かした保育ができるよう常にアンテナを磨き、教師間で情報交換をし、積極的に取り組む。
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none">・ クラスや子どもの様子、自分の考え、保育のポイントなどをクラスだよりなどでわかりやすく、又、楽しみに読んでもらえるよう工夫して知らせる。
地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none">・ 地域開放や子育て支援を幼稚園の中に位置づけて行い、周知させるようにする。
研修と研究	<ul style="list-style-type: none">・ 指導計画の作成や記録の取り方、考察の在り方に関する研修・研究を行う。・ 園内研修以外に、園外の研修にも積極的に参加し、専門知識や技能を身に付ける。・ 幼児を取り巻く状況や社会の出来事について理解を深め、園としてそれに対してどのような教育を行うか考え、話し合い、学習し、タイムリーに保育に取り入れる。・ 危機管理マニュアルに基づき、危機管理の必要性と対応について研修する。・ 特別支援児に対応する保育のあり方について学び合う時間を設ける。

3、 評価項目の達成及び取組み状況（達成度・・・4段階評価）

課題	具体的な取り組み方法	達成度
保育の 計画性	長期的な視野を持ち、先を見通した上で指導計画を立てる。	○
	指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応出来るように作成する。特に、自由遊びをマンネリ化させず、又、子どもの自発性にのみ任せるばかりでなく、一人ひとりの教師が、遊びを具体的に提供し、教師の指導のもとに遊びを展開する時を持つ。新しいことにもチャレンジしていく。	○
	指導計画を適切に文章化し、更にレベルの高い保育日誌を充実させる。	△
	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるように教師の願いや意図を持ち、また季節や社会の変化に応じた環境構成をし、幼児の感覚や興味、関心に刺激を与える。	○
	認定こども園になり、年齢幅が広がることから描く年齢に合った指導計画を充実させる。又、異年齢の関わりを充実させ、育ち合う環境を設定する。	○
取組み 状況	提出物など期日を守っているが、内容的にもう少しレベルアップが欲しかった。 自由遊びへの意識が薄く、マンネリ化しているところもあった。 1クラスの人数が平均的に多くなり、異年齢の交流が難しい部分があった。クラス全員で交流するのではなく、小グループ毎にするなど工夫が必要。 個別に配慮が必要な場面が増え、教師会で共通の認識を持って対応する。	
教師と しての 資質や 能力・ 良識・ 適性	より高度な専門知識や技能を身につけるために、前年度より継続して自己研鑽を行っていき。そのために、各自、自分の研鑽すべき目標を具体的に掲げ、研鑽報告を園内研修で行う。	○
	園全体のことに目を配り、どのように動けばよいか、又、仕事の手順も考えて、一人ひとりが主体的に動く。	△
	周囲の恵まれた環境を生かした保育ができるよう常にアンテナを磨き、教師間で情報交換をし、積極的に取り組む。	○
取組み 状況	自己研鑽に対して、個々の意識にバラつきがある。 園内の環境構成にたいして、教師全員で整えていく意識が必要である。	
保護者 への 対応	クラスや子どもの様子、自分の考え、保育のポイントなどをクラスだよりなどでわかりやすく、又、楽しみに読んでもらえるよう工夫して知らせる。	◎
取組み 状況	今まで手書きで作成していたおたよりをパソコンで作成し、保護者が見やすいよう工夫した。 ホームページも小まめに更新し、クラスの様子を発信した。 保護者との会話の中で、丁寧な言葉遣いを心掛けているが、より一層の努力が必要。	
地域の自然 や社会との かかわり	地域開放や子育て支援を幼稚園の中に位置づけて行い、周知させるようにする。	◎
取組み 状況	今年度のテーマが「サプライズ」だったので、様々な分野の人達に来て頂き、触れ合うことが出来た。 子育て支援や見学者対応の対応を工夫したことで、細かい対応ができ、入園につながった。	
研修と 研究	指導計画の作成や記録の取り方、考察の在り方に関する研修・研究を行う。	○
	園内研修以外に、園外の研修にも積極的に参加し、専門知識や技能を身に付ける。	◎
	幼児を取り巻く状況や社会の出来事について理解を深め、園としてそれに対してどのような教育を行うか考え、話し合い、学習し、タイムリーに保育に取り入れる。	◎
	危機管理マニュアルに基づき、危機管理の必要性と対応について研修する。	○
特別支援児に対応する保育のあり方について学び合う時間を設ける。	○	
取組み 状況	園外研修に教職員全員が参加し、専門的知識を深めることが出来た。 園内研修を週1回行う計画を立てていたが、なかなか出来ず、予定通りに行かなかった。 防犯に関する研修に参加し、園での対応の仕方について、確認することが出来た。	

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 幼稚園型認定こども園2年目になり、1・2歳児が増えたことで、環境構成の見直しを行った。
- ・ 園児が増えたが、体調を崩す教員がいたため、パート教諭を増やし対応にあたった。しかし、お互いのコミュニケーション・連携が難しかった。(勤務形態がバラバラのため)
- ・ 各学年が1クラスのみだったため、お互いの横のつながりが希薄となってしまった。
特に、3歳児以上のクラスと1・2歳児クラスとの交流が少なくなってしまった。
- ・ 園外研修に多く参加し、学んできたことを他の教師と分かち合うことで、刺激となった。

5、 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
保育の計画性	<ul style="list-style-type: none">・ 長期的な視野を持ち、先を見通した指導計画を立て、実践していく・ 指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成する・ 遊びをマンネリ化させず、教師が遊びを具体的に提供することで、幼児が主体的にその遊びに参加し、のびのびと遊ぶようになる・ 保育日誌の形態をかえて、指導計画を適切に文章化し、きめの細かい保育日誌を目指す・ 幼児の発達や生活を見通して環境構成をする・ 安全で清潔感のある環境構成を心掛ける・ 幼児の発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えていく
教師としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none">・ 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる・ より高度な専門知識や技能を身に付けるために自己研鑽を行っていく・ 会議の時は自分の意見を積極的に述べる・ 仕事の手順をよく考え、能率よくかつ責任を持って確実に行うために工夫する・ 周囲の恵まれた環境を生かした保育が出来るよう、環境に目を向ける
研修と研究	<ul style="list-style-type: none">・ 園内研修を意欲的に行う
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 担任・補助教諭がコミュニケーションを十分に取り、より良い教育・保育を目指す

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今度の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2019年度評価

1. 自己評価の結果、評価が低い項目については、達成度の目標レベルが高いのではないかと。
特に、指導計画や保育日誌については、今でも十分なレベルに達している。
2. 研修会への参加意欲が伺えた。研修で得たことを今後の保育に生かしてほしい。
又、専門的知識を深めることで、教師としての資質、能力をさらに高めてほしい。
3. 自己研鑽・能力評価は継続し、努力を期待する。
4. 園だより・クラスだよりなど、保護者に読んでもらえるための工夫が見られた。
又、ホームページも小まめに更新しており、評価できる。
ただ、教師たちが先々のことを色々考え、教育・保育の向上に取り組んでいることをもっと保護者に伝えていくことも必要ではないか。
5. 年間テーマに沿って、様々な分野の人々と触れ合う機会を多く持てたことは、子ども達にとっては貴重な経験となった。
6. 園内の装飾や環境構成は季節感や工夫があり、保育にとって大切な要素なので、継続してもらいたい。
7. 1歳児から5歳児の子どもたちが、一緒に園生活をしているというメリットを生かし、子ども達が互いに育ち合う保育を実現してほしい。